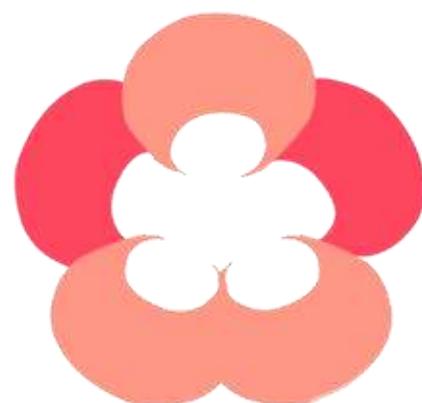
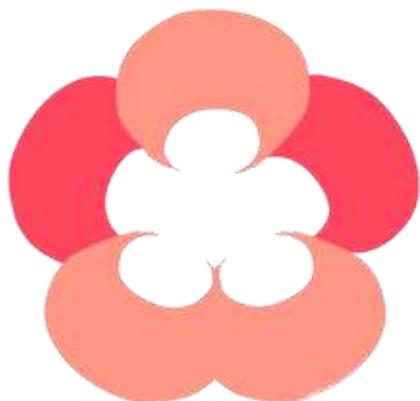


タ ブ ラ ラ サ

Tabula・rasa

私たち、図書館サポーター!



目次

P 3 ごあいさつ

P 4 ビブリオバトル

P5~6 第 5 回 大学図書館学生協働交流シンポジウム

at 梅光学院大学

P 7 第 17 回 図書館総合展

P8~11 四年生より図書館サポーターで学んだことを

振り返って……

P12 後輩たちへ

P12 編集後記

ごあいさつ

このたびは「Tabula rasa」を手にとっていただき、誠にありがとうございます。第 20 号では、私たちが 2014 年 10 月から 2015 年 11 月までに行ってきた主なイベントを中心に載せております。どのような活動をしていたのか、少しでも興味を持っていただければ幸いです。

図書館サポーターの活動をぜひご覧ください。

図書館サポーターとは

学生目線で図書館をよりよくしていこうと活動する梅光学院大学図書館のボランティア団体です。図書館の本の POP（キャッチコピーやイラスト、説明文を載せた広告）を作って展示したり、オープンキャンパスで高校生を対象に図書館を案内したりしています。

活動内容はその年ごとに変化していますが、利用者一人一人が居心地の良い図書館だと感じていただけることを目指して、日々活動に励んでいます。

ライブラリアン 13 世

名前：ライブラリアン 13 世

職業：梅光学院大学図書館公式
キャラクター

年齢：不詳

出身地：はるか彼方

現在は葉、うちわ、ブックカバーなど様々なグッズに登場する私たちの大事な仲間です。



第 5 回

大学図書館学生協働交流シンポジウム

at 梅光学院大学 2015年9月8・9日

大学図書館学生協働交流シンポジウムとは？

全国各地の大学図書館では、図書館業務の一端を職員と学生が協働で担う活動が盛んに行われています。それぞれの大学図書館の特徴ある活動を報告し合い、学生、教職員共に交流を深める会のことです。

今年には本校が会場校となり、「図書館維新 ～図書館が繋ぐ人と人～」をテーマに開催しました。図書館という場において学生と学生、学生と職員、職員と職員、つまり「人と人」を繋ぐための新しい視点が得られるよとの願いを込めました。今回は本校に35大学、5公共図書館からのべ178人の参加者が集まりました。

1 日目 9月8日

・ 講演

「共読サポーターズとつくる
人・本・学びの新しいカタチ」

・ ワークショップ

本のバトンをつなげ！！

「共読ワークショップ これであな
たもブックアスリート」

・ ポスターセッション

「今・わが大学のイチ押し活動 未来・
これからしてみたい活動」

・ 交流会

2 日目 9月9日

・ ワールドカフェ

「繋がりを生み出す図書館となるた
めに、あなたは何をしますか？」



○ 講演

今回は「共読」をテーマに、帝京大学の講師の方が講演をしてくださいました。「共読」とは本を薦め合い、読み合い、評し合う新しい読書の形態のことです。

○ 写真撮影

放送研究(BBC)の方々も2日間、写真・動画撮影をしてくださいました。



○ ワークショップ

講演で聞いた「共読」を実践しました。全員が初めて手に取る新書に帯を作りました。さまざまな愉快的キャッチコピーが生まれ、参加者全員が楽しめるワークショップとなりました。これらの作品は図書館に展示しました。

○ポスターセッション

各大学がそれぞれ自分の大学の「今一押ししている活動」と「これからやってみたい活動」について発表し合いました。ポスターセッションは毎年行っており、少し変化が乏しいのではないかという意見があったため今年から題をつけました。また、すぐに各大学にフィードバックできるようにポストイットに各大学の活動内容に関する感想を書けるように工夫しました。

茶道部がお茶を振舞うお休み処を作り、ハンドベル部の協力で静かに演奏を聴く時間を設けることもできました。



○交流会

下関で開催するため、地域の郷土料理を味わってほしいと思い、フグの唐揚げや瓦そばなどを提案し、たくさんの方々と交流できるように立食パーティーを行いました。

また、学生有志のスタッフが全参加者の道案内や会場の設営をしました。

◀交流会で参加者に挨拶をするサポーター長

○ワールドカフェ

ワールドカフェとは本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行う話し合いの手法の一つです。メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、まるで参加者全員が話し合っているような効果が得られます。

「繋がりを生み出す図書館となるために、あなたは何をしますか？」をテーマに24班に分かれそれぞれ話し合い、興味深い案が多く出ました。

私たちは、当日のワールドカフェを円滑に進めるために、各グループの進行役である図書館サポーターと学生有志のスタッフを集め、事前にワールドカフェの練習を4回行い本番に備えました。ワールドカフェのコーディネーター役を本学講師の渡辺玄英先生にお願いし、連携をとりながら進めていきました。



ビブリオバトル at2014年12月13日

・日付：2014年12月13日



梅光学院大学図書館にてビブリオバトルを開催しました。ビブリオバトルとはおすすめの本の紹介をバトル形式にしたゲームで、発表者を「バトルー」と呼び、持ち時間はひとり5分です。このビブリオバトルは梅光学院大学下関開学100周年を記念して行われた記念企画のひとつでもありました。テーマは「クリスマスに読みたい本」。梅光の学生はもちろんのこと、地域の一般の方々も参加しました。

ビブリオバトルの準備は図書館サポーターが一致団結して取り組みました。

- ・周辺の書店などをお願いして宣伝用のポスターを貼らせてもらい、ホームページでも呼びかけをしました。
- ・当日の会場設営は朝早くから図書館サポーターが集合して館内の重い机やいすを片付けてビブリオバトル用の会場に整えました。
- ・クリスマスの雰囲気を出すためにクリスマスツリーを館内に設置しました。
- ・本番が円滑に進むように当日の動きを何度もリハーサルをして備えました。



ビブリオバトル当日！



発表や質疑応答が順調に進むように努力しました。

- ・質疑応答がしやすいように図書館サポーターが簡単な質問を先にしてほかの参加者が発言しやすい環境を作りました。
- ・図書館学の湯浅先生には事前準備から当日まで大変お世話になり、また図書館学の授業で取り上げていただきました。

第 17 回 図書館総合展

at 2015 年 11 月 11・12 日

・参加者：職員 3 名（当時）3 年生 4 名、2 年生 2 名、1 年生 1 名

○横浜に行ってきました！

日本の図書館業界最大のイベントになる図書館総合展に 2 日間参加するため、下関から新幹線に乗って遙々横浜に向かいました！毎年、出版や大学の関係者などが集まり、図書館に関する最新情報を交換し合う図書館総合展。

多くの展示や講演に触れ、視野を広げることができました！



○図書館総合展に到着！ 1 日目



▲今年注目の「共読」！



▲朝日新聞・間蔵
体験コーナー



▲デザインに凝った
ポスター展示も！



▲ユニークな企画を紹介
するポスター発見♪

○ライブラリアン 13 世の紹介！

— 図書館キャラクター・グランプリ 2 日目

このグランプリは、応募された全国の図書館キャラクターの中から、全来場者の投票で優勝を決める大会です！私たち図書館サポーターのマスコットキャラクター「ライブラリアン 13 世（通称：ライちゃん）」も参戦しましたが、惜しくも賞は逃しました ><



▲ライちゃんプレゼンタイム！

四年生より図書館サポーターで

学んだことを振り返って……

私が図書館サポーターで学んだことは「本を通しての人とのかかわりの素晴らしさ」です。1年間図書館サポーター長を務めさせていただきました。人をまとめることも人に対して指示することも苦手でしたが、みんなに助けをもらい、何とかやりきることができました。

また様々なイベントを開催させていただきましたが、こんなにも本を通して人とかかわることができるのかと感じました。他大学の学生、職員の方だけではなく、近隣の本好きの方や図書館司書の方、ラジオ局の方、新聞記者の方と関わることができました。いままで本は静かに読むことが楽しいのだと思っていましたが、こうして本好きが集まるだけでも楽しいのだということを感じました。図書館は本当に誰もが来ることができる場所です。図書館サポーターは、それを再確認できる場所でした。

図書館サポーター長 長谷川 優子

私は高校時代から図書館が好きで、図書館に貢献したいと思いサポーターになりました。学ばせて頂いたことは本当に多いのですが、最も印象に残っているのは、図書館総合展に参加し視野を広げられたことです。例えば、大学卒業後間もない一般女性の方が、図書館グッズのブースを展示していました。大学で図書館のボランティア活動に打ち込み、卒業後も図書館に関わりたいと思い、デザインを勉強し現在は図書館グッズを制作しておられました。彼女の話聞いて、そんな図書館との関わり方があるのかと強く憧れました。大げさに言えば、図書館を通して、色々な人の生き方があることを知り刺激を受けました。

また、大学図書館でのテーマ展示作りの活動を通して、人を思う大切さに気付きました。私は、本選びにとってもこだわりが強く、十進分類法やテーマの基礎情報を調べてテーマに合う本を計画的に選ぶように主張し、ずいぶん自分勝手に暴走しました。あの時の自分は、自分の方法に囚われ、他者に読んでほしいという思いを隅に追いやっていました。私に足りないものは、本や図書館や読書が好きではない人を思う気持ちです。まだまだマイペースですが、これからの生き方で自分を変えたいと思います。

図書館サポーター副長 植高 公朋

高校時代から図書館で活動するということが多かったので、図書館を学生の目線で改革するという事に心惹かれて図書館サポーターに入りました。実際に図書館を改革できたことは少ないですが、少しでも居心地のいい図書館になったのではないかと思います。

図書館サポーターに入ったおかげで様々な場所にも行くことができました。横浜の図書館総合展では全国の図書館の活動を目にすることができ、ここまでやっていいんだ、こんなこともできるんだ、と沢山の刺激を受けました。シンポジウムでもポスターを制作するなど、いろいろと頼りにされることが多かったと感じています。私のダメなところを他の人が補ってくれ、お互いに頼ることを覚えたと思います。

図書館は本当に様々な方が来館される場所です。自己満足に陥らず今後も革新を続けていってください。

安部 咲貴子

大学入学当初から、図書館サポーターに入りたいと思っていました。最初はただ本好きの延長線の活動なのかと思っていましたが、実際には結構専門的な活動もあると思いました。活動の中で図書館の機能や役割を学ぶことができ、今まで知らなかった図書館や司書のあり方を知ることができました。司書はただカウンター業務をするだけでなく、蔵書の整理や利用者への案内など多岐にわたって活動していると初めて知ったときは驚愕しました。サービス業務をやるなどその時まで思っていなかったのです。図書館サポーターもオープンキャンパスで図書館ツアーをして、所蔵図書を紹介しましたが、どこに何があるのか伝えるのは大変だと改めて思いました。図書館をよく把握しないとできないと実感しました。そのため、サポーターとして図書館をすべて知り尽くそうという目標もでき、有意義に図書館学を学ぶことができました。

有吉 由佳

私は、本について詳しく知りませんでした。しかし、梅光学院大学に入学して図書館サポーターに入りました。まず、本について図書館についての勉強をすることができました。図書館でどんな催しをしたら人に足を運んでもらえるか、イベントなどを皆で考えるのは特に学ぶことも多くてとても楽しかったです。

人間関係からも学ぶことが多く、サポーターたちとのコミュニケーションも上手くとれるようにもなりました。大学祭の出店は専ら店番をしていました。時間によってのシフト制でしたが、時間を超えても店番をし、貢献することが出来ました。会計などの仕事の補佐もしましたが、大変でした。しかし、力になることが出来たと思います。

図書館サポーターの活動は、履修していた図書館学の延長のような感覚だったので、図書館及び本について学びを深めることが出来ました。私にとって図書館サポーターは、成長させてくれる場所であり、笑顔になれる場所だと思います。

衛藤 緑

私が図書館サポーターで学んだことは「利用者の側に視野を向ける重要性」です。私は1, 2年と図書館学を学んできましたが、その復習、理解を深める場所が図書館サポーターにはあったと思います。図書館をよりよくしていこうとする目的を持ち、利用者である学生の目線に立てば、改善すべき点はたくさんありました。その一つとして私が意見を出したのは、自動貸出機の横にあるゴミ箱です。私が図書館で本を借りようとした時、貸出機から返却時にレシートが発行され、処理に困ってしまいました。そこで部会で申し出たところ、レシートのごみ箱を設置することになりました。それは今でも置かれており、私以外にもたくさんのレシートを捨てられているのを見かけます。その光景を見るとあの時「ほかの利用者も困っているのではないか」と思ったのは間違いではなかったのかなと思いました。このように、人の立場に立って考えるということを、私はこれからも意識していきたいと思います。

木村 佳子

図書館サポーターとして3年間活動してきましたが、一番印象に残ったことはやはり「学生協働交流シンポジウム」です。他大学の学生や職員の方々と交流することのできる数少ない機会です。私は2年生と3年生計2回このシンポジウムに参加しました。

このシンポジウムではその大学独自の取り組みやイベント、考えなどを色々聞くことができた上に、視野を広げることのできる、とてもいい勉強になったと感じています。

角 仁美

私が図書館サポーターに入ったのは友人が所属しているからという些細な理由でした。そんな理由で入った図書館サポーターでしたが、私が所属していた代には開学100周年記念行事や全国大学図書館学生協働交流シンポジウムの開催校に選ばれるなどイベントに携わることが多かったです。数多くのイベントに関わる中で私が学んだことはやはり、イベントを成功させるには多くの人々の協力が必要だということです。学生だけでまとまるのではなく職員の方々や身近な人達も巻き込んでいく、自分の代はある程度それが出来たとは思いますが、これからの世代にはより多くの人を巻き込んで行ってほしいと思います。

藤田 京介

後輩たちへ

これからたくさんの方々の行事があり、いろいろな壁にぶつかることも多いと思います。しかし皆さんにはたくさんの方々の職員の方々や図書館に来る学生たちという、いつでも手を貸してくれる人がいます。大変だと感じる事があれば、ためらわずに力を貸してほしいと頼んでみてください。これは私たちがこの図書館サポーターで学んだことです。もちろん私たちもいつでも力を貸します。楽しいことばかりではないかもしれませんが、みんなで知恵と力を合わせて頑張っていきましょう。一つ一つ楽しんで有意義な時間を過ごしてください。

編集後記

まずは、「Tabula・rasa」を読んでいただき、ありがとうございます。「Tabula・rasa」の制作にあたり、今までの活動から自身を、そして組織としての図書館サポーターを客観的に見ることが出来ました。私たちの代は本当にたくさんの方々に支えられてサポーターとして活動できたのだと強く感じました。この場を借りて改めて感謝の意を表したいと思います。

今後とも図書館サポーターを見守っていただけると幸いです。皆さまのお声を是非、図書館サポーターにお聞かせください。

梅光学院大学図書館サポーター広報誌「Tabula・rasa」第20号

発行日：2016年8月4日

編集：梅光学院大学図書館サポーター

発行：梅光学院大学図書館サポーター